様式Ｃ－１９

# 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 10 日現在

機関番号：３８００１
研究種目：基盤研究（Ｂ）
研究期間：2010～2012
課題番号：２２３２００８６
研究課題名（和文）
琉球宮古方言の言語地理学的研究
研究課題名（英文）
The Study of the Linguistic Geography of the Miyako Dialects of Ryukyuan

研究代表者　西岡敏（NISHIOKA SATOSHI）
沖縄国際大学・総合文化学部・教授
研究者番号：30389613

研究成果の概要（和文）：
琉球宮古方言は消滅危機言語に数えられ、他の琉球方言と同様、一刻も早い言語の正確な記録が求められている。本研究では、かつて調査された名詞語彙の言語地図作成を行い、宮古方言の地域的な特徴が視覚的に明らかになるようにした。また、これまで研究が手薄であった動詞の活用変化に焦点を当てた臨地調査を広範囲にわたる地点で行い、宮古方言の基本文例を数多く収集した。新たに収集したデータを言語地図化する作業は現在進行中である。

研究成果の概要（英文）：
The Miyako dialects of Ryukyuan are regarded as endangered languages and, like other Ryukyuan dialects, it is important that they be recorded as soon as possible. This study has visually clarified the regional characteristics of the Miyako dialects by making linguistic maps of nouns which have already been collected and researched in past fieldwork. In addition, widespread fieldwork, which focused on the under-researched verbal conjugation of Miyako dialects, was undertaken and many basic sentences of Miyako dialects were successfully collected. Other linguistic maps are now being drawn on the basis of the newly collected data.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合　計 |
|---|---|---|---|
| ２０１０年度 | 3,200,000 | 960,000 | 4,160,000 |
| ２０１１年度 | 2,800,000 | 840,000 | 3,640,000 |
| ２０１２年度 | 1,700,000 | 510,000 | 2,210,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総　計 | 7,700,000 | 2,310,000 | 10,010,000 |

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：言語学・日本語学
キーワード：国語学、方言学、琉球方言、宮古方言、言語地理学

様式Ｃ－１９

# 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

１．研究開始当初の背景

従来の宮古方言研究は、宮古島の中心地の平良方言、伊良部島方言、池間島方言、多良間島方言の研究が中心で、それ以外の地域の方言の研究は少なく、地域的に偏りがあった。そのため、宮古方言全体の概要の把握も十分ではなく、宮古方言の下位区分も確定されておらず、宮古方言全体を対象にした研究が必要であった。特に、動詞活用は宮古方言において研究が遅れている分野の一つであり、話者の高齢化、過疎の進行のために臨地調査を急ぐ必要があった。

２．研究の目的

宮古諸島全集落の臨地調査で得られた調査語彙項目（本研究以前の調査も含む）を随時入力して整理し、言語地図作成の基礎資料とする。また、パソコン上で宮古の言語地図を作成し、試作・討論・更新を重ねて改良していく。宮古方言を特徴づける項目については言語学の観点から詳しい解説を施し、研究の深化および一般公開を図る。言語地理学的な分布の分析を通して宮古方言全体の音韻的特徴、文法的特徴を明らかにして下位区分を行なうと同時に、宮古方言の歴史的形成過程を解明する。奄美方言、沖縄方言との比較研究、本土方言、および古代日本語と関連付けた研究の基礎をつくる。

３．研究の方法

宮古諸方言の語彙調査は、1980～1990 年代、沖縄言語研究センター（研究機関名）が、『琉球列島の言語の研究　全集落調査票』（約 200 語の調査項目。以下、『全集落調査票』）を用いて行っているが、その調査項目のほとんどが名詞であり、動詞についてはきわめて限定的であった。本研究では、調査済の『全集落調査票』のデータをデジタル化・言語地図化すると同時に、「動詞活用調査票」を新たに作成し、それに基づいて臨地調査を行うこととした。この「動詞活用調査票」は、名詞や助詞なども同時に調査できるようになっている。新たに得られたデータについても随時パソコンへの入力を進め、宮古諸方言の言語地図を作成する。特筆すべき点には解説を施し、宮古諸方言の下位区分とその形成過程、地域ごとの特性を解明してゆく

４．研究成果

研究期間内の３年間に、宮古地域における次の 41 地点の臨地調査を実施した。佐良浜・佐和田・長浜・国仲・仲地・伊良部（以上、旧伊良部町）、川満・洲鎌・上地・与那覇・来間・嘉手苅（以上、旧下地町）、野原・宮国・新里（以上、旧上野村）、水納・塩川・仲筋（以上、多良間村）、池間（前里）・狩俣・大神・島尻・大浦・西原・荷川取・西仲宗根・東仲宗根・下里・西里・久貝・松原（以上、旧平良市）、砂川・友利・福里・長間・比嘉・新城・皆福・七又・西東・保良（以上、旧城辺町）。

この中には従前あまり方言調査されてこなかった地点も含まれる。本研究以前に行われた沖縄言語研究センターによるデータと本研究で得られたデータをもとに多数の言語地図を試作した。臨地調査および作成された言語地図の分析を通して、以下のことが明らかになった。

(1)大神方言は、他の宮古諸方言と比べて、有声音の無声化が著しく、例えば、/dz/の音は、環境によって/k/になったり、/t/になったりしている。このために他の宮古諸方言とは異なる孤例が多くなっている。

(2)多良間系方言（水納・塩川・仲筋）は、直音の拗音化（サ→シャなど）という点などで、他の宮古諸方言と異なる語形を示す。しかしながら、語末の/L/への成節子音化という点では、旧伊良部町の多くの方言と共通する部分をもつ。

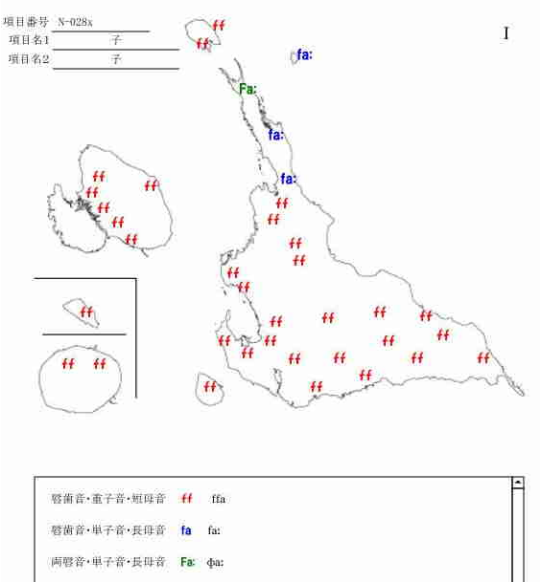
(3)伊良部方言（佐和田・長浜・国仲・仲地・伊良部）は、全体として共通の特徴を見せ、ひとまとまりのグループとして宮古諸方言の下位方言として位置づけられそうである。しかしながら、先述した多良間系方言とのつながりのほか、破擦音/ks/が/ts/になること、連母音が融合しないこと（伊良部方言の一部を除く）など、池間系方言や宮古周辺部方言（特に宮古南部方言）とのつながりを示す例も多く、今後さらなる検討が必要とされる

(4)池間系方言（池間・佐良浜・西原）は、佐良浜・西原の集落が池間島からの移住によって成立するなど、歴史的な共通性が知られている方言である。今回の調査研究においても、ハ行ｐ音の喪失、中舌母音（舌尖母音）の喪失傾向などが共通に認められ、共通の特徴をもつ諸方言として、一つのグループにまとめることができる。

(5) 上記以外の宮古島を中心とする諸方言は、宮古周辺部方言と宮古中央部方言に大きく分類でき、さらに宮古周辺部方言は宮古北部方言と宮古南部方言に細かく分類できそうである。

(6) 宮古周辺部方言は、破裂音/t/の/ts/への破擦音化、連母音の非融合という点で中央部方言と異なる特徴を持つ。このうち、特に宮古北部方言においては、成節的子音/M/の喪失傾向、破裂音/p/の/b/への有声化、重子音/ff/の喪失傾向、子音/f/に中舌母音が続くことなど、他とは異なる独特の現象が観察される。

宮古言語地図の一例（子）
宮古北部方言が他と異なる語形を示す。




(7) 宮古中央部方言のうち、久貝・松原の方言に独自の語彙が多く見られた。例えば、親族語彙に焦点を当てると、「父」は「アーザ」、「母」は「アーニ」、「祖父」は「ウパーザ」　祖母は「アーマ」と記録され、他地域と異なる語形を示している。

(8)臨地調査を行った地点のうち、８つの地点の調査が完遂できていないので、今後も可能な限り調査を継続し、調査の完遂に努めたい。当該の方言の流暢な話し手を見出すことが困難になっているという報告も受けている。調査は緊急性を要するが、今後も地元の協力を仰いで態勢を整えていきたい。

(9)言語地図作成には一般公開も考慮して市販ソフト FileMakaerPro を利用したが、特殊記号の扱い、汎用性の問題などにおいて課題が残った。また、当初の研究計画においては、宮古・八重山を合わせた南琉球全体の言語地図を作成する予定であったが、そのことも果たせなかった。これについても今後の課題とし、琉球列島全域の言語地図作成に向けた取り組みを継続したい。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 15 件）


① 西岡敏、言語地図から見る宮古諸方言の親族語彙―「父」「母」「子」「祖父」「祖母」「兄」「姉」―、沖縄国際大学日本語日本文学研究、査読有、第 31 号、2013、33-43
② 仲原穣、言語地図にみる宮古語の地域差、沖縄国際大学日本語日本文学研究、査読有、第 31 号、2013、45-67
③ 下地賀代子、南琉球・多良間方言のオノマトペの形式、沖縄国際大学日本語日本文学研究、査読有、第 31 号、2013、13-32
④ 狩俣繁久、琉球宮古島野原方言の間接的エヴィデンシャリティー、日本東洋文化論集、査読有、第 19 号、2013、15-28
⑤ 下地賀代子、南琉球・多良間水納島方言の名詞の格形式、沖縄国際大学日本語日本文学研究、査読有、第 30 号、2012、61-83
⑥ 狩俣繁久、宮古語の動詞活用―代表形、否定形、過去形、中止形―、消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究　南琉球宮古方言調査報告書、査読無、12-02、2012、69-107
⑦ 西岡敏、宮古方言による民話テキスト「豊見氏親の大鯖魚退治」、沖縄国際大学日本語日本文学研究、査読無、第 29 号、2012、1-16
⑧ 狩俣繁久、琉球列島における言語接触研究のためのおぼえがき、琉球の方言、査読有、第 36 号、2012、17-38
⑨ 狩俣繁久、音韻研究と方言指導から宮古方言の表記法を考える、琉球諸語記録保存の基礎、査読無、号無、2011、194-204
⑩ 狩俣繁久、琉球方言の焦点化助辞と文の通達的なタイプ、日本語の研究、査読有、第 7 巻 4 号、2011、69-81
⑪ 小川晋史、これからの琉球語に必要な表記法はどのようなものか、日本語の研究、査読無、第 7 巻 4 号、2011、99-110
⑫ 下地賀代子、南琉球・多良間水納島方言資料：民話「マディの知恵」、沖縄国際大学日本語日本文学研究、査読無、第 28 号、2011、49-61
⑬ 狩俣繁久、琉球方言から考える言語多様性と文化多様性の危機、日本の方言の多様性を守るために、査読無、号無、2011、4-11
⑭ 又吉里美・下地賀代子、（続）琉球方言における形容詞の比較研究―津堅島方言と多良間方言―、南九州地域科学研究所報、査読無、第 27 号、2011、51-66
⑮ 西岡敏、宮古方言における敬語法の記述

―旧上野村野原方言の敬語動詞を中心に―、日本語研究の 12 章、査読無、号無、2010、196-209

〔学会発表〕（計 20 件）

① 狩俣繁久、琉球宮古野原方言の間接的エヴィデンシャリティ、日本言語学会、2012 年 11 月 24 日、九州大学
② 仲原穣、音韻の特徴からみた宮古諸方言の下位区分、沖縄言語研究センター定例研究会、2012 年 10 月 13 日、琉球大学
③ 西岡敏、宮古諸方言の狭母音およびその周辺の音変化について―言語地理学的調査の報告―、沖縄言語研究センター定例研究会、2012 年 10 月 13 日、琉球大学
④ 下地賀代子、言語地図にみる宮古諸方言の動詞の過去形、沖縄言語研究センター定例研究会、2012 年 10 月 13 日、琉球大学
⑤ 當山奈那、形容詞重複形の地理的分布―言語地理学的調査の報告―、沖縄言語研究センター定例研究会、2012 年 10 月 13 日、琉球大学
⑥ 狩俣繁久、宮古野原方言のテンス・アスペクト・モダリティ、沖縄言語研究センター2012 年度（第 35 回）研究発表会・総会、2012 年 7 月 7 日、琉球大学
⑦ 中本謙、言語地図から見る宮古方言の身体語彙、沖縄言語研究センター2012 年度（第 35 回）研究発表会・総会、2012 年 7 月 7 日、琉球大学
⑧ 西岡敏、宮古方言の敬語法再考、沖縄言語研究センター2012 年度（第 35 回）研究発表会・総会、2012 年 7 月 7 日、琉球大学
⑨ 仲原穣、琉球方言と西日本方言の断定非過去形について、日本方言研究会、2012 年 5 月 18 日、千葉大学
⑩ 下地賀代子、多良間方言（多良間島・水納島）の格助詞－Nka について、沖縄言語研究センター定例研究会、2012 年 5 月 12 日、琉球大学
⑪ 狩俣繁久、宮古諸方言の動詞活用―断定形、否定形、過去形、中止形―、沖縄言語研究センター定例研究会、2012 年 4 月 14 日、琉球大学
⑫ 下地理則、主節はどこで現れるか：テキストデータにおける伊良部方言の節連鎖、沖縄言語研究センター定例研究会・琉球諸語研究会、2012 年 1 月 12 日、琉球大学
⑬ 野原優一、言語地図から見る宮古諸方言の形容詞、沖縄言語研究センター定例研究会、2011 年 11 月 19 日、琉球大学
⑭ 西岡敏、言語地図から見る宮古諸方言の親族語彙、沖縄言語研究センター定例研究会、2011 年 11 月 19 日、琉球大学
⑮ 仲間恵子、宮古諸方言における音節構造とリズム構造について、沖縄言語研究センター定例研究会、2011 年 11 月 19 日、琉球大学
⑯ 下地賀代子、宮古水納島方言の記述研究、沖縄言語研究センター定例研究会、2011 年 10 月 15 日、琉球大学
⑰ 狩俣繁久、地理的分布にみる宮古八重山諸方言の弱変化動詞、沖縄言語研究センター2011 年度（第 34 回）研究発表会・総会、2011 年 7 月 9 日、琉球大学
⑱ 野原優一、宮古島野原方言の形容詞、沖縄言語研究センター2011 年度（第 34 回）研究発表会・総会、2011 年 7 月 9 日、琉球大学
⑲ 下地賀代子、南琉球・多良間島方言の係助辞-ja について、沖縄言語研究センター定例研究会、2011 年 5 月 21 日、琉球大学
⑳ 下地賀代子、南琉球・多良間島方言の係助辞-ja の文法的機能［中間報告］、沖縄言語研究センター定例研究会、2011 年 1 月 22 日、琉球大学

〔図書〕（計 1 件）

① M.Shimoji & T.Pellard, Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, An Introduction to Ryukyuan Languages, 2010, 238p

６．研究組織

(1)研究代表者

西岡　敏（NISHIOKA　SATOSHI）
沖縄国際大学・総合文化学部・教授
研究者番号：30389613

(2)研究分担者

狩俣　繁久（KARIMATA　SHIGEHISA）
琉球大学・法文学部・教授
研究者番号：50224712
又吉　里美（MATAYOSHI　SATOMI）
岡山大学・教育学研究科・講師
研究者番号：60513364
仲原　穣（NAKAHARA　JO）
琉球大学・法文学部・非常勤講師
研究者番号：60536689
仲間　恵子（NAKAMA　KEIKO）
琉球大学・法文学部・非常勤講師
研究者番号：00412859
中本　謙（NAKAMOTO　KEN）
琉球大学・教育学部・准教授
研究者番号：10381196
下地　理則（SHIMOJI　MICHINORI）
九州大学・人文科学研究科・准教授
研究者番号：80570621

(3)連携研究者
なし

(4)研究協力者
下地　賀代子（SHIMOJI　KAYOKO）
沖縄国際大学・総合文化学部・准教授
研究者番号：40586517
野原　優一（NOHARA　YUICHI）
沖縄国際大学・総合文化学部・非常勤講師
小川　晋史（OGAWA　SHINJI）
国立国語研究所・プロジェクト研究員
坂井　美日（SAKAI　MIKA）
大阪大学大学院・文学研究科博士後期課程在籍
青井　隼人（AOI　HAYATO）
東京外国語大学大学院・総合国際学研究科博士後期課程在籍
大森　一郎（OMORI　ICHIRO）
沖縄県立辺土名高等学校・教諭
當山　奈那（TOYAMA　NANA）
琉球大学大学院・人文社会科学研究科後期課程在籍
田代　竜也（TASHIRO　TATSUYA）
琉球大学大学院・人文社会科学研究科前期課程在籍
當銘　千怜（TOME　CHISATO）
琉球大学・法文学部卒業
平良　尚人（TAIRA　NAOTO）
琉球大学・法文学部在籍
金城　絵里香（KINJO　ERIKA）
沖縄国際大学大学大学院・地域文化研究科在籍